

金沢大学法学類・法学部
 2009年度「法理学」小テスト
 6月8日5限実施/ 出題: 足立英彦
 解答・解説(30点満点)

1. 以下の論理式のうち、 $A \rightarrow B$ と論理的に同値のものはどれか。それぞれの論理式の真理表を書いて説明しなさい。(5点)

(a) $((A \rightarrow B) \wedge A) \rightarrow B$

解答

| A | B | $A \rightarrow B$ | $(A \rightarrow B) \wedge A$ | $((A \rightarrow B) \wedge A) \rightarrow B$ |
|---|---|-------------------|------------------------------|--|
| T | T | T | T | T |
| T | F | F | F | T |
| F | T | T | F | T |
| F | F | T | F | T |

同値ではない。

(b) $\neg(A \wedge \neg B)$

解答

| A | B | $\neg B$ | $A \wedge \neg B$ | $\neg(A \wedge \neg B)$ |
|---|---|----------|-------------------|-------------------------|
| T | T | F | F | T |
| T | F | T | T | F |
| F | T | F | F | T |
| F | F | T | F | T |

同値である。

(c) $(A \rightarrow B) \rightarrow (\neg B \rightarrow \neg A)$

解答

| A | B | $A \rightarrow B$ | $\neg B$ | $\neg A$ | $\neg B \rightarrow \neg A$ | $(A \rightarrow B) \rightarrow (\neg B \rightarrow \neg A)$ |
|---|---|-------------------|----------|----------|-----------------------------|---|
| T | T | T | F | F | T | T |
| T | F | F | T | F | F | T |
| F | T | T | F | T | T | T |
| F | F | T | T | T | T | T |

同値ではない。

解説 真理表に各1点、(b)のみ同値とする答に2点配した。

2. 以下の文を論理式に翻訳せよ。ただし、つぎの解釈を用いること。(各1点、計4点)

Mx : x は眼鏡をかけている。 Jx : x は日本人である。

(a) すべての日本人は眼鏡をかけている。

解答 $\forall x(Jx \rightarrow Mx)^{*1}$

(b) 誰も眼鏡をかけていない。

解答 $\forall x\neg Mx$ (または、 $\neg\exists xMx$)

(c) すべての人が眼鏡をかけている、というわけではない。

解答 $\neg\forall xMx$ (または、 $\exists x\neg Mx$)

(d) ある日本人は眼鏡をかけている。

解答 $\exists x(Jx \wedge Mx)$

3. 以下の論理式をなるべく自然な日本語に翻訳せよ。ただし、上記の解釈を用いること。(各1点、計3点)

(a) $\exists x (Jx \wedge \neg Mx)$

解答 眼鏡をかけていない日本人がいる。

(b) $\forall x (Mx \rightarrow Jx)$

解答 眼鏡をかけていれば日本人である。

(c) $\neg\exists x (Jx \wedge Mx)$

解答 眼鏡をかけている日本人はいない。

4. 以下のそれぞれの規範命題は両立しうるか。(各1点、計4点)

(a) 「タバコを吸うことを命じる」と「タバコを吸うことを禁じる」

解答 両立しえない。

解説 両者は反対の関係にあり、一方が真の場合、他方は必ず偽。したがって、両者がともに真であることはない。

(b) 「営業を許可する」と「営業しないことを許可する」

解答 両立しうる。

解説 両者は小反対の関係にあり、一方が真の場合、他方は真または偽。したがって、両者はともに真でありうる。

(c) 「信じることを禁じる」と「信じないことを許可する」

解答 両立しうる。

解説 両者は大小の関係にあり、大が真なら小は真(大が偽なら、小は真または偽)。したがって、両者はともに真でありうる。

*1 $(x)(Jx \rightarrow Mx)$ も正解。

(d)「駐車を禁じる」と「駐車を許可する」

解答 両立しえない。

解説 両者は矛盾の関係にあり、一方が真の場合、他方は必ず偽。したがって、両者がともに真であることはない。

5. 自由（狭義）に関するつぎの問いに答えなさい。（各4点、計8点）

(a) 自由とは何か。

解答 自由とは、作為と不作為がともに許されている法的位置のことである。

解説 問いの自由（狭義）と自由権を混同し、妨害排除請求権も自由に含めた記述は1点減。

(b) aがbに対してある行為について不自由である場合、bはどのような法的位置にあるか。

論理式ではなく、文で答えよ。

解答 bはaに対して、ある行為（Gとする）をすることを求める権利を有する、又は、その行為Gをしないことを求める権利を有する、という法的位置にある。

解説 「又は」を「かつ」としている記述は2点減。bが一方の権利を有するだけで、aは不自由となる。

6. 憲法上の自由権と民法上の物権の共通点と相違点について説明しなさい。（6点）

解答 憲法上の自由権と民法上の物権は、両者ともに自由権であるという点で、すなわち、作為と不作為がともに許されているという意味での自由と、その作為と不作為を妨害しないよう相手方に求める権利とから構成される法的位置である、という点では同じである。相違は、憲法上の自由権の主体は不特定の者（国民又は人一般）であり、その名宛人は特定の者（国）であるのに対して、物権の主体は特定の者（物を支配する人）であり、その名宛人は不特定の者（物権の主体以外の人）である、という点にある。

解説 共通点の説明に4点、相違点の説明に2点配した。自由権は法的位置の一種であり、規範ではないので、「自由権は・・・という規範である」という書き方は誤りである。また、自由権は「自由」と「権利」を合わせもつ複合的な法的位置であるので、「自由権は・・・権利である」という書き方も好ましくない（減点せず）。妨害排除請求権の代わりに「消極的権利」（不作為を求める権利）と記述している場合は1点加点した。

7. 講義に対するご意見、ご感想、ご要望等があれば、答案用紙に記入してください。どのような内容であっても、採点には影響しません。

コメント 板書についてのご意見を多数いただきました（字が小さい、タイトルの章・節番号が間違っている、教卓に隠れた部分が見えない、等）ので、改善するよう努力します。な

お、教室の気温については、「暑い」、「寒い」という意見がそれぞれほぼ同数ありましたので、現在の気温設定（27度）を維持する予定です。

参考情報（7月13日現在）

| 履修登録数 | 受験者数 | 平均点 |
|-------|------|------|
| 194 | 180 | 21.1 |

* 30点（満点）4名、29点6名。

以上